

# かくらおか

(題字は初代学長 山田守英氏)

## 第 81 号

平成 6 年 12 月 10 日

編集 旭川医科大学  
 厚生補導委員会  
 発行 旭川医科大学教務部学生課



|                           |                 |
|---------------------------|-----------------|
| 教授に就任して……………高後 裕… 2       | 体育大会…………… 6     |
| 卒後十年、より深くかつ広く……………幸村 近… 3 | 解剖体慰霊式…………… 6   |
| 卒後十年に思う……………片山 雄一… 4      | 地医体・東医体…………… 7  |
| ……………片山由佳里… 4             | 公開講座…………… 8     |
| 研究室紹介……………松田 光悦… 5        | 教官の異動…………… 8    |
| 研究室紹介……………平塚 寿章… 5        | 窓 外……………吉田 弘… 8 |
| 研究室紹介……………平山 博史… 6        |                 |



## 教授に就任して

内科学第三講座 教授 高 後 裕

昨年3月末に停年退官された初代並木正義名誉教授の後任として、同年12月16日付けをもって札幌医科大学より赴任致しました。旭川医科大学内科学第三講座は、消化器内科学では全国でも屈指の教室としての地位にあり、このような伝統ある教室を継承させていただくことに、大きな責任を感じる次第です。幸いに、教室は建学以来の多くの俊英がおり、彼らを軸とした新しい教室作りを始めたいと思っています。

私は、1950年に釧路市で出生、釧路湖陵高校を卒業後、1968年札幌医科大学へ入学致しました。学生時代は、弓道部に所属しておりましたが、丁度その頃、student movementが大学にも波及し、学生生活に大きな影響を残しました。大学卒業後、同大学院でがん研究内科を専攻、学位取得後、同大内科学第四講座で助手、講師、助教授として奉職してまいりました。この間に米国ニューヨーク市アルバートアインスタイン医科大学とボストン市タフツ大学医学部の生化学教室に留学する機会を得、各々アルコール代謝の生化学、鉄結合蛋白質の分子生物学的研究に従事しました。その時の経験は、研究テーマの立て方、どのようなアプローチをするか、また得られた結果の解釈をいかに緻密に行うか等多くのことを学ぶことができ、海外での知己を得ることができたと同時に私にとり忘れがたい経験となりました。帰国後は、消化器内科学と血液腫瘍学の2つの分野を専門とし、その臨床と研究、教育に携っています。具体的には造血幹細胞を利用した癌化学療法（骨髄移植、末梢血幹細胞移植）、サイトカインなどの生物学的反応修飾物質（biological response modifier, BRM）製剤を用いた癌免疫療法、遺伝子療法の基礎的検討など血液腫瘍学に関連する分野、消化器内科学に関連する分野では、アルコール臓器障害の機序、診断法、鉄などのラジカル産生を起こす金属イオン結合蛋白質の生化学と分子生物学的研究、不可視部長波長領域（近赤外線）を用いた消化器内視鏡の開発など種々の問題に取り組んできました。

現在、医学医療を取り巻く環境は大きく変化しようとしています。高齢化社会が急速に始まり、地域の医療はもとより、大学病院での診療・研修・研究内容もそれに相応して改良が必要とされていると思

います。ちなみに日本国民の死亡原因についてみますと、国民全体では悪性腫瘍で命を落とす方は4人に1人となりますが、最も社会的に active でその「生」が期待されている30~70歳台に目を向けますと、その比率は何と2人に1人という驚くべき数字になります。確かに、この20年で癌に対する診断、治療に関する技術的進歩は目ざましいものがあり、内科的治療で白血病、リンパ腫など治癒可能な疾病も出現してきましたが、胃癌・膵癌など未だにその内科治療に多くの課題を抱えている癌腫が多いことも間違いありません。幸に、第三内科では消化器癌に対するX線、内視鏡を用いた診断と治療技術は既に国内でも指導的レベルにあり、これを継承発展させることは極めて重要な責務であると認識しています。更に、癌に対する取り組みを、消化器ばかりでなく血液疾患の領域にも広めることが不可欠であると思います。このことは、とりもなおさず、教室のメインテーマが消化器内科学と血液腫瘍学の2本柱を持つことを意味する訳で、今後造血幹細胞移植術、超大量癌化学療法、癌の緩和治療、在宅療法など現在必要とされている臨床腫瘍学の認定医に対する知識と力量を身につけることにもなる訳です。

同時に、地域に広く存在し、各地域の医療を担っている多くの関連病院との連携をより緊密にし、初期研修ばかりでなく、卒後の生産教育を如何に効率良く反復し続けていくことも重要で、教室・同門会が一体となって、変わりゆく医療事情に対応したいものと考えています。

教育については牧野先生、菊池先生という先輩2教授のおられる内科各講座の先生方と密接に連絡をとりつつ、より有機的に行うことになりつつあり、時代に合った教育を心がけて行くつもりです。出来れば学生に「夢」が与えられる教育をしたいと念じています。

内科学教室の根幹は高度の臨床教育を発進させるのに不可欠の研究体制を維持、確立させていくことにあります。とりあえず、教室の生化学研究室をP-2レベルの遺伝子操作が行える遺伝子研究室として再発足させ、来るべき時代の要求に応えていきたいと思ひます。皆様、宜しくお願い致します。



## 卒後十年、より深くかつ広く

臨床検査医学 幸村 近

同じ医学部医学科卒の百人といっても十年も経つといろんな道に進んだ人がいる。地域医療から国際舞台まで、開業から保健所までと様々だ。我が6期生もほとんどが35歳を超え、早い者はもう小学生の子供がいる。多くは医長やオーベンとして活躍する一方、中間下級管理職の悲哀を味わう生活だろう。

卒業したばかりの頃、先輩たちの動向を見るに30代後半に大きな転機が訪れるだろうと考えていたが、いつの間にかその年齢だ。今もそう感じてはいるが、具体的には見えてこない。ちょっと心許ない現況だが、この機会に昔を振り返ってみた。読者の多くは学生だろうから、旭川医大創設期のOB（もっと上の先輩には叱られるかもしれないが、一応6学年が揃った年の入学ということでお許し下さい）で、母校に残った一例として何かの参考にでもなれば幸いです。

私は1984年に第一内科の門を叩いたが、別に母校の発展に尽くそうなどという気負いはなかった。北海道の出身であるのに、早くから準備をして東京の研修病院を受験した者もいた。魅力は感じたが決断できず、就職活動の必要ない母校の医局に残ることになった。半数以上がそうしたし、一内は同期入局の人数も多く心強かった。しかし特に成績優秀でもない自分が、厳しいことで知られていた小野寺前教授の教室でやっていけるか一抹の不安があった（同じような不安をお持ちの方、大丈夫です）。毎日講義中に睡眠時間を取っていたので、昼間眠らない生活に耐えられるかと結構本気で心配したのを覚えている（同じ心配をお持ちの方、たぶん大丈夫です）。

医学部はツブシがきかないと忠告された人も少なくないだろう。確かに医師免許取得までは一本道だが、出てみると案外オプションがある。臨床医はもちろん、基礎研究に身を投ずることもできるし、保健行政の役人になる道もある。医学は生身の人間に関する学問だから、私のように理科系で何か人間相手の仕事があった者には医学部はうまい選択である。高校時代何気なく理数系を選び、数学も物理も苦手という現実気付いて消去法的に医学部受験を思い付いた。運良く合格したのは、当時旭川医大が国立二期で少し多めに勉強の期間があったのと、

理数系の問題が易しくて点差がつきにくかったからだ。

選択の幅があるのは良しとして、一旦臨床医を選ぶと今度は幅を持つことが大事なのも事実である。それでなくても医者は常識がないと批判されやすい。自分でも医学医療以外のことにも意識して取り組もうとしてはいるのだが、これがなかなか難しい。学生時代はクラブ活動を一生懸命やる時間があったが、卒業後は気が付くと回りには医療関係の人間ばかりになっている。パソコン通信は付き合いの幅を広げるのに役だったが、注意しないとハマって本業が疎かになる。

内科を選んだのは、より直接的に患者と接することのできる領域だということが大きかった。二年目、初めての出張先の病院での仕事は貴重な経験だった。四十数名の医師のうち旭医出身は自分一人で、柄にもなく母校の評判を落とすまいと初めはひどく緊張したのを覚えている。同じような思いは卒後北大に入局した後輩からも聞いた。数か月後慣れた頃に始まり四～五年経った時期にかけては何でもできるような気になっていた。今になってみると随分思いついていたものだと思う。知識や技術のことだけでなく、例えば患者さんとの接し方にしても、医大病院で患者さんを押し回すようにエレベーターを出ていく医者を見ると、自分もそんな失礼な振る舞いをしていたかも知れないと恥ずかしくなる。

三年目に循環器を専門と決めてからは他の内科の分野と異なる診療のパターンに魅力を感じつつも、アメリカでの血栓症の実験を橋渡しとして血液学へややシフトし、今は検査部で血小板をいじっている。こう書くと自分だけで進路を決めてきたように聞こえるが、留学以外の動きは他人の手になる「医局の人事」で何となく決まった。それに伴って興味の対象が変化してきたというのが実際だ。

十年経って未だ究極の目標は見つかっていない。自分で切り開けるか、流れに身を委かすか。ただ少なくとも、患者と話をする医者としての立場は残して行きたい。そしてその仕事、知識や技術の専門性と幅広い人間的という両立の簡単でないものを要求する以上、この狭間でまだしばらくは（あるいは最後まで）もがき続けるような気がしている。



## 卒後十年に思う

第6期生 片山 雄一

由佳里  
(旧姓 山本)

卒後十年余同期生同志結婚して7年余になる私供夫婦の許に突然幸村近(臨床検査)から電話があった。「坂本さんからの御指名なんだけどさ…(第二生理の坂本教授のことです、すいません)」かぐらおかに卒後十年ということで寄稿できないかという話である。家内は静岡県自分は神奈川の出身だが、そもそも二人ともあこがれの北海道に行きたいばかりに大学を選び(純粹か不純か?)迷ったあげく卒業と同時に旭川を離れた二人であったので(家内は本当に随分迷ったようである。自分は卒業間際まで学業をさぼっては山歩きやスキーに明け暮れ北海道を満喫していたのだが、高校時代の恩師に日本人に生まれたからには一度東京で生活してみなければいけないと唆されつ今だに北海道旭川と聞けば落ちつきを失い、テレビニュースに旭川が映ったと言っは大騒ぎをし、やれ日頃から特に家内の由佳里は旭川でスキーがしたいとか大雪山を歩きたいとかもつと夏休みも帰省せず旭川であれこれやっておけばよかったと後悔もしきりである位の旭川へ遊びに行きたくてしょうがない我々は現在各々の仕事と5才、3才の愚息供が足枷となって実行できないでいる欲求不満をせめて文章にということで二つ返事で引き受けてしまった。二人とも物書きは苦手で、いつぞ先輩がかぐらおかには同じ卒後十年という事で随分立派な内容のことを書かれていたのを思い出し、しまったとは思ったけれどよく考えてみると学生時代(昭和53~59年)の間すばらしい思い出を与えて下さった旭川の人々にまたこの十年間母校を訪ねてもいなかった不義理な私達を思い出し声をかけて下さった方々に改めて感謝する機会をいただけてありがたいことであると思う。ここ十年の間この思い出と旭川に(遊びに)ゆきたいという気持の共有が、それなりに忙か過ぎてきた日々の中で自然と励みともなり、また私達夫婦の間の絆の一つであったように思うし今後もそのようにあり続けると思う。かと言って再び旭川に住みたいと言うこととは全く別のことである。今思うと卒後この十年循環器内科を選んでからは急に侵襲的なカテーテル治療が進歩普及したが、東京女子医大や榊原記念病院等にいたこと

でその先駆けのころに多の経験ができたことが現在の就職先である成田記念病院に殆んど〇の状態から開心術まで行くことが出来るまでに漕ぎつけられたことによく役立ってきたと思う。昨年からは、スポーツドックもはじめて心肺機能の計測等も始めたし、現在は心臓リハビリテーションの充実の為にスタッフの教育に力を入れている。家内は卒業と同時に浜松医科大学眼科に入局し結婚と同時に東京医科歯科大学へ移ったが、自分の現在の豊橋への移動とともに浜松医大へ戻ったのち、昨年10月に浜松駅に近いビル内に眼科クリニックを開設し大いに奮闘している。それぞれこの10年でこの先も鋭意充実させてゆくべき自分の医療現場を得ており毎日毎日精進してゆかねばならない。さて我が母校旭川医大はこの10年どのように変わったであろうか。私達夫婦の記憶の中では、すばらしき学生生活の思い出として昭和59年3月まででそこでの時間は停止してしまっているが、日々医学医療は変革し続けている。少し回りを見ても薬の治験システムの不備や日本に於いて本来必要はずの大規模前向き研究が進まないこと。あるいは我々の卒後急速に広まった専門医制度は専門医の診断確度や費用対効果の保障に裏付けられているのだろうか等多くの問題があるはずで本来大学は研究教育、医療の全てにおいて責任期待はますます大きく担っていかねばならないと思う。現在母校を支えている方々又これから卒業される若い方々の健闘活躍を遠方より望んで止まない。

追伸①我が家では今二人の息子がもう少し成長したら(親の体力が衰えないうちに)一家4人で大雪山の縦走をしようと楽しみにしている。実行したら(いつになるかはわからないが)その珍道中(になるであろう)をかぐらおかに披露させていただけたらうれしいことだと思ふ。

追伸②この十年2条7丁目あたりにあった中華料理屋のことをしきりに思い出す。確か蒋介石の肖像画がかかっていたが、あの味は健在であろうか。近況を御存知の方は教えて下さい。

## 研究室紹介

### ■ 歯科口腔外科学講座 ■ 松田 光悦

歯科口腔外科は昭和51年11月1日、本学附属病院の診療科として開設された。開設当初は教授不在であったが、昭和52年11月1日より北進一教授が赴任し現在に至っている。開設当時は医局員も少なく、教授自ら当直をするなど診療科としての臨床活動は勿論のこと、学生教育や研究活動においても医局員の先頭に立って努力してきた。昭和60年には待望の講座に昇格し、医局員の数も徐々に増えて教室活動もなお一層充実してきている。現在大学には15名の医局員が在籍し、教育、臨床そして研究に従事している。また旭川市内や道北、道東地域の関連病院にも7名の医局員が派遣されており、地域の歯科医療の向上に一役を担っている。診療面では、年間2000名前後の新患が、主として道北、道東地区の医療機関から紹介されて受診している。その内容は顎・顔面の外傷、口腔癌などの悪性腫瘍や各種口腔良性腫瘍、唇・顎・口蓋裂などの奇形や顎発育異常、顎関節症、その他心疾患など全身の疾患を持つ患者の歯科的治療と多岐にわたっている。研究面では、臨床

に即したものとして口腔癌や唇・顎・口蓋裂の治療に関する検討を行っている。基礎的なものでは、口腔疾患で失われた口腔の形態と機能の回復を目的として、各種再建材料を用いた骨移植の研究が組織学、形態学そして生化学的な観点から盛んにアプローチされている。咀嚼という重要な口腔機能のベースになる顎骨の再建は、移植材料が母床骨に結合するというは勿論のことであるが、その後義歯や人工歯根（インプラント）を装着して機能が果たせるかどうか重大な問題である。この条件を完全に満たす移植材料を開発することが当教室のテーマである。教育面では5年次に32時間の臨床講義を行い、6年次には各グループ1週間の臨床実習が行われている。学生諸君は「医学部なのだから歯の勉強なんて」と思うかも知れない。しかし咀嚼、嚥下という機能を司り、身体健康維持に重要な意義を持つ口腔の医学が、医学の一分科であることは明白である。医師に必要な歯・顎・口腔を包含した口腔科学の知識を賦与することが当講座の教育目標であり、このことを良く理解して講義・実習に参加し、幅の広い医師を目指して頂きたい。

(歯科口腔外科 講師)

## 研究室紹介

### ■ 化学教室 ■ 平塚 寿章

新設医科大学と呼ばれている本学も、創設後20年以上経た現在ではこの呼び名も空々しいものに聞こえます。全く同じ年齢の化学教室にもこれは当てはまると言われそうですが、開学から現在まで厳しい学生教育に専念した内田教授も今春退官となり、一つの大きな転換期を迎えることになりました。

寒い思い出しかない仮校舎での夜の講義。メジャー片手に設計図と首びきでレイアウトした新しい化学の研究室や実習室など……。今思い出そうとしても物憶えの悪いこの頭には、“まるで昨日のことのように鮮明に……”とは浮かんできません。くやしいので、“思い出せない位年月が経ったのだ……”と思うことにしています。

文部事務官は初代の沢田さんの後中村さんが続き、化学の動力源として毎日良く働いてくれます。皆が毎日快適に過ごせるような環境を整えてくれ、ワープロや英文タイプなどもマシンと一体化しているのではないかと思われる位のスピードで仕上げられます。実習の準備や後片付けまでやってくれます。

彼女のキリッとした顔つきを見て教官と間違えた学生もいる程です。

教務職員は初代村上氏が転職した後、二代目は石坂さんが継ぎました。彼女も転職し、三代目となったのは尖戸さんです。大変物静かな女性で、学生実習の時には学生達に取り囲まれたら最後、声も聞こえず姿も見えず行方不明になってしまいます。石坂さんは教授から「みどり」と名前と呼ばれていましたが、こちらの呼び名はなぜか「尖戸クン」。いつも真面目に学生実習を担当し、教授の手助けをしています。

最近の内田教授は大忙し。心はもう4月からの退官後の生活設計で一杯のようです。人には厳しい彼の御意見ももうすぐ聞かれなくなります。

そして最後は助教授の平塚です。北大時代からの研究を本学でも続けています。テーマは「骨格筋収縮のエネルギー変換機構の解明」ですが、思ったようには進みません。教授の休みの日が多い今日この頃、二人の女性に囲まれて竜宮城の浦島太郎状態の幸福な日を送っています。そして私が出張中は女護が島となる日の多い化学教室です。

(化学教室 助教授)

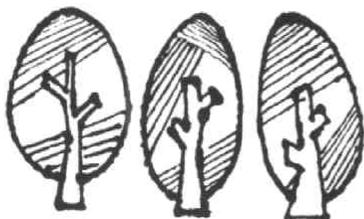
## 研究室紹介

### ■ 公衆衛生学講座 ■ 平山 博史

旭川医科大学公衆衛生学講座は本年度で開講20周年を向かえ、種々の方面において、多彩で活発な研究活動を行なっている。本講座では、病気の集団疫学的研究とくに旭川市鷹栖村における長期的観察をもとに成人病の疫学的研究を行なっている。実社会に対してこれらの研究成果、実績を還元すべく、本学卒業生では妹尾秀雄先生（第5期）が北海道庁環境保健課々長、田中先生（第7期）が道庁主任技師、また道内における主要都市の保健所長として重責をはたしているのは、相田稚内保健所長（第3期）、北村北見保健所長（第5期）、横内名寄保健所長（第6期）、吉田深川保健所長（第6期）、栗井紋別保健所長（第9期）、館石滝川保健所長（第7期）、山口静内保健所長（第10期）、森浦河保健所長（第8期）、また下岡先生は苫小牧保健所、大見先生は中標津保健所、堀先生は倶知安保健所、高垣先生は帯広保健所、広島先生は北見保健所でそれぞれ医師として重責をになって活躍している。同門会では、山崎彰美先生が千葉県衛生部保健予防課で、大角先生は東京、清瀬の結核研究所で活躍している。

大学では福山裕三教授がコンピュータを駆使した疫学的研究および病態生理の研究を行ない、それを基に「よくわかる内科」としてまとめられておられる。助手の望月先生は健康教育の研究に多忙である。コンピュータソフトに秀れている助手の竹内先生は鷹栖村の長年にわたる地域健康調査をまとめ農村部の成人病疫学研究に多忙な日々を送っている。本年11月には福山教授が学会長となり北海道公衆衛生学会総会が旭川で開催されることが決定し、教室員及び同門会が一丸となって成功に向けて頑張っている。

（公衆衛生学講座 助教授）



## 体育大会

今年も9月7日(水)、学年対抗の体育大会が開催されました。爽やかな秋空の下、全員参加の綱引きをはじめ各種目に熱戦が繰り広げられケガもなく無事終了しました。

各種目の学年別の成績は次のとおりです。

（学生課）

| 学年 | バレー | バドミントン | ソフト | 綱引き | 卓球 | 駅伝 | 合計点 | 順位 |
|----|-----|--------|-----|-----|----|----|-----|----|
| 1年 | 11  | 13     | 5   | 0   | 26 | 4  | 59  | 4  |
| 2年 | 15  | 10     | 10  | 8   | 28 | 8  | 79  | 1  |
| 3年 | 11  | 8      | 3   | 3   | 26 | 6  | 57  | 5  |
| 4年 | 10  | 18     | 8   | 5   | 33 | 2  | 76  | 3  |
| 5年 | 15  | 13     | 5   | 4   | 31 | 10 | 78  | 2  |

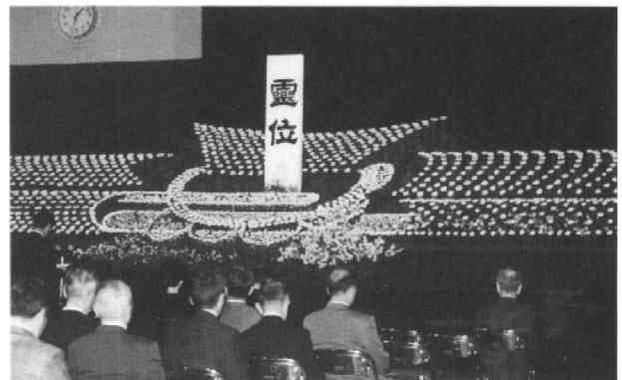


## 解剖体慰霊式

平成6年度解剖体慰霊式が、9月21日(水)午後1時30分から本学体育館において執り行われました。

式に参加した御遺族・御来賓・本学教職員・学生は、本学の教育及び学術研究のために尊い御遺体を提供され、医学発展の礎石となられた117名（病理解剖29名、法医解剖58名、系統解剖30名）の方々のお徳を偲び御冥福を祈念しました。

（庶務課）



# 地医体・東医体

## 地区体

|            |    |          |               |
|------------|----|----------|---------------|
| 総合         | 男子 | 16位      |               |
|            | 女子 | 19位      |               |
| 準硬式野球      |    | 準決勝進出    |               |
| ソフトテニス     |    | 雨天のため中止  |               |
| 男子バスケットボール |    | ベスト8     |               |
| 女子バスケットボール |    | 2回戦      | 旭医 14-70 酪農学園 |
| 男子バレーボール   |    | 決勝トーナメント |               |
|            |    | 1回戦      | 旭医 0-2 道都大    |
| 女子バレーボール   |    | 予選リーグ敗退  |               |
| サッカー       |    | 2回戦      |               |
| 卓球         | 男子 | 予選リーグ敗退  |               |
|            | 女子 | 予選リーグ敗退  |               |
| 剣道         | 男子 | 予選リーグ敗退  |               |
| ハンドボール     |    | 1回戦      | 旭医 13-40 函教大  |
| 弓道         | 男子 | 20校中9位   |               |
|            | 女子 | 22校中19位  |               |



## 東医体

|             |              |          |                    |
|-------------|--------------|----------|--------------------|
| ソフトテニス部(男)  | 団体           | 準決勝リーグ進出 |                    |
| ソフトテニス部(女)  | 団体           | 6位       |                    |
|             | 個人           | ダブルス     |                    |
|             |              | 優勝       | 南 仁子(5年)・田邊聖子(6年)組 |
| 弓道          | 団体           | 9位       |                    |
| 女子バスケットボール部 |              | 1回戦      | 旭医(勝)VS独協          |
|             |              | 2回戦      | 旭医(敗)VS聖マリアンナ      |
| サッカー部       |              | 1回戦敗退    |                    |
| 水泳部(女子総合8位) |              |          |                    |
|             | 女子200m個人メドレー | 5位       | 由良 智春(5年)          |
|             | 女子500m平泳ぎ    | 3位       | 神藤 巳佳(6年)          |
|             | 女子400m自由型    | 6位       | 由良 智春(5年)          |
|             | 女子100m平泳ぎ    | 4位       | 神藤 巳佳(6年)          |
| ハンドボール      |              | 下位リーグ    | 2位                 |
| バドミントン部(男)  |              |          |                    |
|             | 団体           | 3位       |                    |
|             | 個人           | シングルス    | ベスト8 高橋            |
|             |              |          | ベスト16 岩田           |
|             |              | ダブルス     | ベスト8 高橋・石田組        |
|             |              |          | ベスト16 岩田・中村組       |
| バドミントン部(女)  |              |          |                    |
|             | 団体           | 準優勝      |                    |
|             | 個人           | シングルス    | ベスト8 山中            |
|             |              |          | ベスト16 角谷           |
|             |              | ダブルス     | 2位 山中・角谷組          |



## 陸上部

|        |           |     |               |
|--------|-----------|-----|---------------|
| 200m   | 石川 貴充(4年) | 11位 | 23秒91         |
| 800m   | 武居 正明(4年) | 10位 | 2分10秒70       |
| 円盤投げ   | 松尾公美浩(1年) | 4位  | 28m 24        |
| ハンマー投げ | 松尾公美浩(1年) | 2位  | 24m 22        |
| 砲丸投げ   | 松尾公美浩(1年) | 4位  | 9 m 80        |
| ゴルフ部   | 団体        | 男子  | 7位            |
|        |           | 女子  | 3位            |
|        | 個人        | 男子  | 11位 岡田 優二(4年) |
|        |           | 女子  | 優勝 梅内 明子(5年)  |

## 空手部

|     |      |     |                   |       |       |
|-----|------|-----|-------------------|-------|-------|
| 団体  | ベスト8 | 1回戦 | 旭医                | 不戦勝   | 杏林大学  |
|     |      | 2回戦 | 旭医                | 3-1   | 信州大学  |
|     |      | 3回戦 | 旭医                | 0-5   | 札幌医大  |
| 個人  | 1回戦  | ×   | 大久保仁史(4年)         | -〇    | 慶応    |
|     | 1回戦  | ×   | 長峰 正泰(5年)         | -〇    | 千葉    |
| 卓球部 | 団体   | 男子  | 予選2位(決勝リーグ進出)     |       |       |
|     |      |     | 決勝リーグ・・・1回戦敗退     |       |       |
|     |      | 女子  | 予選1位(決勝リーグ進出)     |       |       |
|     |      |     | 決勝リーグ・・・4位        |       |       |
|     | 個人   | 男子  | シングルス             |       |       |
|     |      |     | 源 直人(5年)          | 4回戦進出 |       |
|     |      |     | 稲岡 努(4年)          | 4回戦進出 |       |
|     |      |     | 男子ダブルス            |       |       |
|     |      |     | 館岡一芳(5年)・源 直人(5年) | 組     | ベスト16 |
|     |      |     | 女子シングルス           |       |       |
|     |      |     | 福田 晃子(5年)         | ベスト8  |       |
|     |      |     | 小池裕美子(5年)         | 4回戦進出 |       |

## 男子バレー部

|      |             |  |
|------|-------------|--|
| 予選D組 | 3位(決勝進出ならず) |  |
| 旭医   | 0           | { $\frac{12}{16}$ - $\frac{15}{15}$ } 聖マリアンナ |
| 旭医   | 0           | { $\frac{6}{12}$ - $\frac{15}{15}$ } 福島      |
| 旭医   | 2           | { $\frac{12}{15}$ - $\frac{15}{11}$ } 横浜市立   |

## 剣道部

|       |       |                          |
|-------|-------|--------------------------|
| 団体    | 予選リーグ | 2位(同率1位の福島県立医大との代表者戦に負け) |
|       | 決勝リーグ | 1回戦 旭医 0-4 順天堂           |
| 個人    | 男子    |                          |
|       |       | 柳田 朗(5年) 1回戦             |
|       |       | 長谷川 聡(4年) ベスト8           |
|       |       | 佐々木 寛(4年) 2回戦            |
|       |       | 佐々木 禎仁(4年) 1回戦           |
|       |       | 森 孝之(3年) 3回戦             |
|       |       | 宇佐美 伸(2年) 1回戦            |
|       |       | 宮内 和誠(1年) 1回戦            |
|       |       | 森 洋子(6年) 優勝              |
| 女子    |       |                          |
| 硬式テニス | 男子    | 2回戦                      |
|       | 女子    | ベスト4                     |

## 公開講座

本年度の公開講座は、10月3日から28日の期間に10回にわたり、ニュー北海ホテルを会場に実施されました。

今年は「成人病としての心臓・血管病」をテーマに、東副学長を実施責任者となり、本学の教官10名が時折ユーモアを交えながらわかりやすく講義しました。

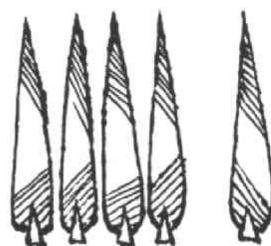
本学の公開講座も9回目を迎え、市民の関心も高く、受講者は終始熱心に講義に聞き入っていました。

(学生課)



## 教官の異動

|     |         |       |     |       |
|-----|---------|-------|-----|-------|
| ※昇任 | 6. 6.16 | 外科学第二 | 講師  | 加藤 一哉 |
| ◇   | 6. 7.16 | 麻酔・蘇生 | 講師  | 玉川 進  |
| ◇   | 6. 8. 1 | 生物学   | 助教授 | 立野 裕幸 |
| ◇   | 6.10. 1 | 放射線部  | 助教授 | 竹井 秀敏 |
| ※辞職 | 6.10.31 | 放射線科  | 講師  | 早坂 和正 |



## 窓外

吉田 弘

平成6年4月に千葉大学から此処旭川医科大学放射線医学講座講師として転勤して参りました。現在大学病院の放射線治療医として多忙な毎日を送っています。小生の家系は代々早死にで、皆60才位で癌になって死んでいます。この短い一生のうち、前半の30年は都会に住み、後半は空気の良い所に住みたいというのが若い頃からの夢でした。東京・千葉・神奈川で過ごしてきた小生には、旭川という土地に関する知識が皆無であり、ツンドラ大草原の中にぼつんと駅が建っているような場所を想像していたのですが（これは本当に大袈裟では無く、実際今でも-20℃を越えると生存を確認する電話が友人からかかって来ます）、案外都会でびっくりしました。それでも乳母車の代わりに子供を轆で引いたり家の目の前にスケート場があるのを見ると、日本も広いなーと変な感動を覚えます。雪景色は本当に綺麗

ですし、また生活環境も申し分無く、小生の選択は間違っていなかったと思うこの頃です。

さて、小生所属の放射線医学講座ですが、目下慢性的な人員不足に泣いている毎日が続いています。一口に放射線科と言っても、診断、核医学、治療では各々その内容は全くと言って良い程異なります。そのため各人の業務量は大変多く、日常のルーチンワークが終わる頃には夜中になっている事が日常茶飯事です。医者になってから七年余り、最近では女房も子供と一緒に母子家庭を満喫しています。新人の先生にはその点まだ娑婆への未練があるようで、いつも“辞めてやる”、と文句を言っています。この文句が出なくなり、更に風呂に入らなくなって来れば一人前でしょう。お酒の好きな油野教授を始めとして気の置けない人ばかりで、命を切り売りするような毎日を楽しんでいます。

ところで、昨日神戸を中心に大地震がありました。当科の秀毛先生の実家は神戸にあります。紀子さんファミリーの影響だか彼の家にはテレビが無く、今も医局のテレビを食い入るように見えています。幸い知人も含めて皆無事だとの事です。旭川には地震が無い様で、これで寒くなければ天国なのになー。

(放射線医学講座 講師)